

# アグリ筑西

## 2018 11月号

朝晩の冷え込みに、冬が近づいていることを感じます。昼夜の寒暖の差が激しいので、お体にお気をつけください。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター) 発行  
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979

筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス! →



### 農業経営士が東京農業大学「フィールド研修」を受け入れました!

10月4日～9日、東京農業大学の学生18名が、県西地域9名の農業経営士宅で農家実地研修「フィールド研修」を行いました。この研修は、茨城県農業経営士協会と東京農業大学との学生実習に関わる協定に基づいて今年初めて実施され、県西地域が担当となりました。

管内では、学生6名が3名の農業経営士宅に泊まり込みで研修を行いました。学生は、キュウリの芽かき、カボチャの葉かき、イチゴベットのマルチ張り等の作業の他、選果場や卸売市場の見学を行いました。初めての慣れない作業に戸惑いながらも、農業経営士との交流を通じ、農業の楽しさ・魅力・やりがいを感じたようでした。また、農産物を生産することの大変さを実感することで、日頃、食している農産物のありがたみに改めて気がついたとの声も聞かれました。



上) 受入式の様子, 下) イチゴのマルチ張り

今回の研修を通して、1人でも多くの学生が茨城農業に興味を持ち、県内で就農することを期待しています。普及センターでは、引き続き、新たな担い手確保に向けた農業経営士協会の活動を支援していきます。

### 子実用トウモロコシの栽培実証に取り組んでいます

国内の家畜の飼料のうち、特に需要が高い濃厚飼料の自給率は14%と低く、その多くを輸入に頼っている現状です。そこで、県では家畜飼料の自給率向上のため、国産飼料の増産に向けた取組を進めています。今年度、筑西市の普通作経営体で麦・大豆作付け体系の中に子実用トウモロコシを導入する栽培実証に取り組んでいます。国産子実用トウモロコシの利用が拡大されれば、過度に輸入原料に頼らない(安全・安心な)畜産産物生産に繋がります。今後も技術的・経済的な課題等検討を行いながら、生産・利用に向けた取組支援を行っていきます。

子実用トウモロコシの収穫現地検討会(茨城県県西農林事務所、結城地域農業改良推進協議会共催)を以下のとおり予定しています。子実用トウモロコシの栽培、飼料としての利用に興味がある方は、普及センターまでお問い合わせください。

- 開催日時:平成30年10月30日(火)13時30分～15時30分  
(雨天時予備日 平成30年10月31日(水)13時30分～15時30分)
- 開催場所:結城市小森(農事組合法人 宮崎協業)

## 青年農業士トマト先進地視察研修会を開催！



10月11日、筑西地域青年農業士連絡協議会は栃木市の柏崎農園においてトマト先進地研修を開催し、青年農業士ら計13名が参加しました。

研修では、農園代表の柏崎氏の案内を受け、トマトハウスを見学しました。農園では昔ながらの低軒高ハウスにおいて、越冬トマトを栽培していますが、従来の誘引法の欠点を解決する技術として独自に開発した「連続3段階摘心誘引法」により、低コストハウスでも高収量、高収益をあげる農業経営を実現しています。参加者は、施設に高いコストをかけなくても、工夫すれば高い収量を実現できることを目の当たりにし、柏崎氏のアイデアと高い技術に刺激を受けた様子でした。



低軒高トマトハウス見学の様子

協議会は引き続き、果樹、普通作等の品目別研修を開催していく予定です。普及センターでは、青年農業士が地域農業のリーダーとして更に成長するための活動を支援していきます。

## ！ 営農情報！！

### イネ縞葉枯病対策～収穫後の管理～



**来年のイネ縞葉枯病の発生を抑えるために、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息密度を減らしましょう！**

ひこばえ（再生イネ）はヒメトビウンカの生息地となるだけでなく、ウイルスの伝染源にもなるため、田んぼは早めに耕起しましょう！（土づくりの面でも望ましく、一石二鳥です。）

また、ヒメトビウンカの幼虫は、あぜや農道のイネ科雑草の中で越冬します。すみかとなる雑草を除去すれば、ヒメトビウンカは冬を越すことができず、来春の成虫数を減らすことができます。

冬の間でも枯れずに生育するイネ科雑草（例：写真）は、除草剤でしっかり枯らせておきましょう！



この雑草（スズメノカタビラ）には要注意！！



### ナシ黒星病対策～秋期防除と落葉処理～

黒星病菌は芽基部および落葉上で越冬し、翌年の発生源となります。伝染源を減らすことが防除の第一歩となるため、来年の発生を抑えるためにも防除対策を実施しましょう。

葉に薄い墨を流したような模様はありませんか？これは、黒星病の秋型病斑です。降雨があると、葉から芽基部に黒星病が感染します。葉が8割落葉するまでしっかりと秋期防除を行いましょう。



黒星病秋型病斑



落葉上から胞子が飛散して直接感染します。

落葉からの黒星病感染

また、落葉上で越冬した菌は翌春になると胞子を作り、開花期頃に飛散しますので、落葉処理も重要な防除対策となります。落葉を集めて土中に埋めるのが基本ですが、園の端に寄せられて積み上がった落葉を集めて処理するだけでも、園内の菌密度を大幅に減らすことができます。落葉処理は薬剤による防除と同等以上の効果がありますので、積極的に実施しましょう。

## 普及員のひとりごと ～嶋川真理子～

## 編集後記

約2年間の育児休暇から復帰して、10月から勤務しています。久々の皆さまとの再会を嬉しく思っております。通勤は国道294線の一本道で単調なのですが、帰宅時、実は星がよく見えることに気が付きました。これから星の季節なので、（安全運転に気を付けつつ）楽しもうと思っています。

青年農業士の研修会には私も参加しました。柏崎農園のトマト栽培は、ハウス内で生育にばらつきがなく圧巻でした。今瀬

皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。